

大原寸部分拓碑窟石度甫皇浦・版図主

「落ち穂拾い記」③

『皇甫度石窟碑』北魏孝昌三年(527)

(図版①)
河井仙麿刻、文求堂住所印



(図版⑤)
皇甫度石窟碑整拓本



(図版⑥)
碑石と拓本比較図



(図版④)
皇甫公石窟寺窟外側



柵のそばに立つ左端の人物の前が、
皇甫度石窟碑である。

龍門造像記の最も有名な作は、「始平公造像記」であろう。書風、文字構成とも雄強であり龍門を代表する書を見る事も出来る。珍しく、陽刻で刻されており、拓本で見ると他の造像記との印象が、大変異なり趣深い。篆刻の世界でも、この「始平公造像記」を倣った作もある(図版①)。先に紹介した中国文物出版社で紹介された最旧拓の「始平公造像記」レベルの拓本が、日本で展観されたのは、1988年に日本で開催された中国書法名品展であろうか。甲骨金文拓本から明清の書まで100件のなかに、最旧整拓未劇本が含まれていた。(図版②)その後中国との交流が盛んになるとともに、日本でも北京故宮博物院所蔵の「龍門造像記」(始平公造像記他四種)がカラー精印された。剪装本であるが、趙之謙旧藏の、最旧拓本に属する。その後、この種のレベルの拓を中国から購入した知人も現れた。私は、整拓旧本の始平公造像記を求めていたが、なかなか入手できずに諦めた。そうすると偶然なことから剪装本で、戦前将来された龍門六種の最旧拓本を入手した。代表的な四種以外に牛欄造像記も最旧拓であった(図版③)。最後に龍門石窟の書として、多くの方がご存じない北魏時代の碑刻を紹介しよう。「皇甫度石窟碑」(皇甫公石窟寺造像碑とも)である。龍門の中心ともされる有名な露座の大仏が刻された所よりさらに進んだ南端の岩壁の中程に刻された皇甫公石窟寺窟の入り口の左にある(図版④)。整拓本から推測すると幅90センチ高さ2メートルほど。碑額六行、行三字、碑文は三十一行、行六十二字、碑側題記五行。一千字余の石碑と推測される(図版⑤)。碑面がはげしく損し、全体の3割ほどが残るのみである(図版⑥)。左端に「孝昌三年(527年)」の北魏の紀年を見る事が出来る。残存文字の字画は、鮮明である。右頁の原寸部分図版に示したように、北魏体でありながら北魏の龍門造像記的な書風とは異なり、同時代の墓誌銘の優れた端正な趣の楷書であり、龍門では北魏時代の作としては、最大規模の碑刻である。龍門の書に関心のある中国の方でこの「皇甫度石窟碑」を知る人は少ない。

伊藤滋(書斎名・木鶴室)

書道芸術院 令和の群像 (2022)



第72回書道芸術院展「雪恋ひ」

鈴木智翠書



鈴木智翠

できる時代でもあったと思う。

今はどうであろう。書写教育の変化、文字はペンからキーボードで書く時代となり、大人は漠然たる不安を抱えているよう思う。その中で書はどのような位置を持ち、価値観を持てるのか。

膝小僧を黒くして筆を握ったのは小学2年の時だった。恩師浜田一堂先生は体で書くことを指導して下さった。座り机に向かっても膝を立てお尻を浮かせ、上半身を自由にすること。当然のように汗と墨で膝小僧は黒ずんでいた。学生展、書初め、七夕書道展、体で書くことをいつも指導して下さり、今も頭から離れない。書の道に導いて下さったかけがえのない恩師の一人である。

長じて選択肢が広がり、道から遠ざかることもあつたが、書はいつも付かず離れずの位置で、伴走してくれたように思う。

そのような不肖な弟子を広い心でご指導下されたのが恩師加藤翠柳先生である。私の怖いもの知らずの無知な作にも決して否定なさらず、個性を尊重して下さった。ただ、作品を見ていただく時、先生から全て見透かされているような緊張感があり、冷や汗をかいている自分がいた。

先生は宮城野書人会の創始者でありお宅は会の本部でもあった。諸先輩がたくさんおられて進むべき道を示されていて、夢中で後を追いかけた。またそつ

このコロナの時代、自分自身を見つめ、見直す機会も多かったと思う。その中で聞こえてくるのは、書があつて良かたという声。自分と向き合い、語らい一人の時間を充実させることができたというのだ。

そうだ、それも価値の一つ。そしてその上で創造の世界に入り込む。もがいて、苦しんで何物かを作り出す。その醍醐味と達成感。それが全てということもあるかもしれない。

ただこの多様性の時代、書への関わり方は決して一つではなくなってきているのではないか。それぞれが自分に合った方法で、書に精一杯関わることを、私も共に関わり歩んでいこうと思う。

書のひろば

理事長 下谷洋子

書道芸術院秋季展 併催推薦作家展 無事終了

新型コロナウイルス蔓延の影響がまだ終息を見通せない中、本院主催企画展「書道芸術院秋季展」並びに併催の「書道芸術院推薦作家展」が10月4日～9日まで、東京銀座セントラルミュージアム銀座とアートサロン毎日の2会場で開催されました。

本院財団役員（顧問・理事・監事・評議員・参事）、院展名譽会員、参与会員（選抜）、2月の第75回書道芸術院展特別賞選考に合わせ選抜された作家（春華賞候補作家）、新審査会員、審査会員候補公募作家、新審査会員、審査された秋季菊花賞10名、秋季俊英賞40名、合わせて169名の作品が第一会場のセントラルミュージアム銀座に展示されました。

前回より、新審査会員が増えたため、バランスのよい展示が懸念されました。が、結果、見苦しくない会場に仕上りホッとしてました。

昨年より始まった部門別推薦を、全部門通して15名を選抜した「書道芸術院推薦作家展」は、アートサロン毎日を会場として一人2回の持ち幅で1～2点の作品を出品していただきました。会場の関係で作品寸法をあらかじめ希望調査の上、指定させていただきまし



秋季展表彰式風景

た。3×3尺、5×5尺、8×4尺、さらに2点組での出品など、多彩な形式で、7月の下見会を経ての制作は見えある作品に仕上がっていました。

8日に公募の表彰式及び研究会を行いました。コロナも小康を保っているためか、受賞者やアートサロン出品者のほとんどが出席、財団の役員他出席者が多数で、終了後の会場での研究会は、久しぶりに熱気を帯びていました。

やはり、他者との交流が大切なだと痛感いたしました。

また、2階では、東京総局展が開催されました。財団役員による巡回展作品と共に、第75回記念展で特別展示となつた香川峰雲先生の遺作も一部陳列されたため、総局の作品を含め、多彩な会場となりました。詳細は別記（16・17ページ）をご覧下さい。

今回も毎日書道会の「書のひろば」でユーチューブ発信していますので、お出かけになれなかつた方は、どうぞご覧下さい。

年に毎日書道会の「書のひろば」で申込み下さい。会場の関係で先着150名で、締め切りとさせていただきます。

当日は、講演会終了後財団定例理事会が予定されています。諸行事、第76回展などの事業を検討する予定です。

なお、講演会に伴う懇親会は、現下の状況によって今年も取り止めとさせていただきます。

高木先生は、たくさんの要職をお持

ちですが全日本書道連盟では副理事長をされ、本院でもお世話になっておりまます。聴講ご希望の方は、11月15日までに院事務所まで所定の申込用紙でお申込み下さい。

来年3月6日から4月1日まで4期に亘り、アートサロン毎日にて、第74回展から会員昇格予定の作家による作品が展示されます。

△2022年毎日チャリティー募金

昨年よりチャリティー色紙展に代わつて設けられたチャリティー募金ですが、毎年書道会より依頼された役員の先生

方は、11月30日までに募金協力をお願ひします。

詳細は追って本院の年間予定表をご覧

企画委員会開催

10月7日秋季展開催中、3年ぶりに企画委員会が開かれました。議題は、各総局・支局の近況報告、学生展ワーキショップへの協力、本院への提案などでしたが、活発な意見がたくさんあり、今後の本院の活動に参考にさせていただきます。

11月23日上野精養軒にて

書道芸術院創立記念日講演会

既に先月号に掲載していますが、本年の講師は、日本芸術院会員の高木聖雨先生をお迎えします。

高木先生は、たくさんの要職をお持

ちですが全日本書道連盟では副理事長をされ、本院でもお世話になっておりまます。聴講ご希望の方は、11月15日までに院事務所まで所定の申込用紙でお申込み下さい。

当日は、講演会終了後財団定例理事会が予定されています。諸行事、第76回展などの事業を検討する予定です。

来年3月6日から4月1日まで4期に亘り、アートサロン毎日にて、第74回展から会員昇格予定の作家による作品が展示されます。

△2023年毎日書道展新会員作家展

来年3月6日から4月1日まで4期に亘り、アートサロン毎日にて、第74回展から会員昇格予定の作家による作品が展示されます。

高野山書道協会常務理事会 10月17日品川プリンスホテルにて

第56回高野山競書大会の経過報告と、第57回（令和5年度）の競書大会開催について協議しました。

57回展の出品日程、規定などは、ほぼ56回展を踏襲しますが、来年は弘法大師御誕生1250年にあたるため、学生部のみ記念賞が出されます。

歴史のある高野山競書大会ですが、本院は設立当初は香川峰雲先生、その後種谷扇舟、恩地春洋先生と長い間関わってきました。参加されていない団体は、是非この機会にご参加下さい。（詳細は後日掲載）

たとのことです。

第74回展に向けてから始動しますが、事務局合同会議を経て、5月の受付・搬入・審査員総会、鑑別、6月から7月の入賞審査、会員賞選考会などの日程が発表されました。

詳しくは追って本院の年間予定表をご覧下さい。

10月3日如水会館にて

◇第73回毎日書道展の件

山形・九州・東海展を残すだけになつた第73回毎日展は、今年は東京展はじめども昨年より入場者は上まわり、祝賀会こそ中止となつたが、顕彰式や揮毫会なども行われた会場もあり賑わつ

たことです。

第74回展は、2月6日の運営委員会から始動しますが、事務局合同会議を経て、5月の受付・搬入・審査員総会、鑑別、6月から7月の入賞審査、会員賞選考会などの日程が発表されました。

詳しくは追って本院の年間予定表をご覧下さい。

現代詩文書基礎基本講座(30)

小竹石雲

前衛書基礎基本講座(6)

千葉蒼玄

【臨書から現代詩文書への展開】

- 原帖



【李白仙詩卷】蘇軾(1093年)
李白の作と称される詩2首を書卷にしたためたもの。詩の伝来には神秘的色彩があるが、書は蘇軾58歳の代表作の一つである。彼は「書には神・氣・骨・肉・血のどれを欠いても本物の書にはならない」また「書をする者は立派な人格者でなければならない」とも説いている。



特徴

李白の作と称される詩2首を書卷にしたためたもの。詩の伝来には神秘的色彩があるが、書は蘇軾58歳の代表作の一つである。彼は「書には神・氣・骨・肉・血のどれを欠いても本物の書にはならない」また「書をする者は立派な人格者でなければならない」とも説いている。

①写実的臨書

- 平行四辺形に字形をとり、冂えと高い氣韻が漲る。
- 大小の文字を巧みに交錯させ、全体の流動感を盛り上げている。

「昔飛骨時」

②発展的臨書

①写実的臨書

「顏真卿の書は雄秀独出し、古い書法を一変させた。格も力量もしば抜けている」と蘇軾が絶賛しているよ

うに、顏真卿の影響を強く受けている。豊潤な肉厚さと沸々迫りくる魂の叫びを、親が我が子にハグするような覆い被さる字形をもつて書いた。

前衛書基礎基本講座

前回まで「前衛とは」の考え方を記してきたが、果たしてそれをもとに前衛書をどう展開していくべきだらう。ここで書の線について考えてみたい。

○一本の線を引く

前衛は線が基本であるという人がいる。では書の線とはどういうことだろう。皆さんに「筆で一本の線を引いてください」というと、まず半の人は①と引く。②を引く人もあるだろうが少數である。なぜかとうと書道を習い始めた当時を思い出していただきたい。基本の点画として「一」から習うことが大半であるからである。また一本の「一」によりと書いてしまう。

前にも話したが、これが我々の常識となって新しい形が見えてこない。よく考えれば③の斜めの線もあるし④の線もある。縦に「一」を書いた人でも④はごく少數である。これは数字の1という形に慣れているからである。⑤これもひとつななりの一本の線である。(一本の線というとどうしても直線を連想してしまうからである)

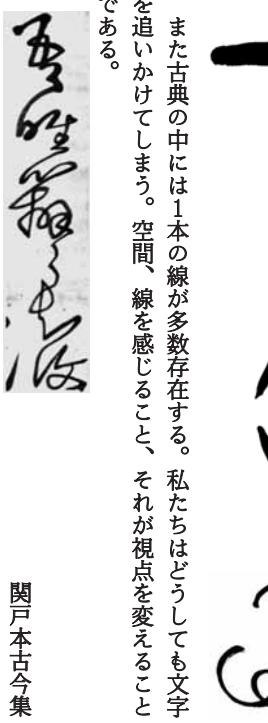
①

②

③

④

⑤



関戸本古今集

「昔飛骨時」

②発展的臨書

- 顏真卿・蘇軾共に生來の筋骨さに加え、蘇軾には自由さと豊かな情操を感じられるので、羊毛筆を使ってみた。

特集：書道藝術院秋季展

コロナ禍の中、本年も書道芸術院秋季展がセントラルミュージアム銀座、及びアートサロン毎日で開催された。昨年同様、感染対策を充分ふまえ、院のホームページによりインターネット動画配信も行つた。

審査会員候補公募の審査では、作品の優劣、誤字、脱字の可否など、チェックし、より質の高い作品を選抜した。

本年の出品内容は、財団役員49名、審査会員選抜30名、新審査会員24名、審査会員候補公募は厳止な審査の結果、秋季菊花賞10名、秋季俊英賞40名が選ばれ展示された。展覧会会場は、出品者全員の熱気、氣力溢れる作品で横溢され、見応えのある雰囲気であった。

間であった。
最終日は、両展とも午後5時に閉会し撤回作業も無事終了した。開催に当たって、ご尽力頂いた関係各位に対し感謝申し上げたい。

観客数は、両展合わせて、昨年を上回り、新型コロナウイルス感染も些か収まりつつあることの証しかも知れません。

アートサロン毎日では、第75回展での審査結果で選抜された15名による「書道芸術院推薦作家展」が開催された。若手の審査会員の育成の場として、今後の書道芸術院の担い手として前途有望な方々に出品して頂いている。そんな中、出品者間での意見交換など積極的に交流があり、初期の目的達成がなされたと拝聴している。

会期 併催 「書道芸術院推薦作家」展
会場 令和4年10月4日(火)～10月9日(日)
セントラルミュージアム銀座
アートサロン毎日

追芸術院秋季展

秋季展公募入賞者

◇秋季菊花賞（10名）
本誌特集ページ（P）

本誌特集ページ(P8・9)に名前と
作品を掲載しました。

ご出品頂きました各位に厚く御礼を
申し上げ、皆々様の更なるご発展を祈
念し、終章と致します。



推薦作家展会場（アートサロン毎日）



秋季展会場（セントラルミュージアム銀座）

書道芸術院秋季展

会期 令和4年10月4日(火)～10月9日(日)

会場 セントラルミュージアム銀座（紙パルプ会館）



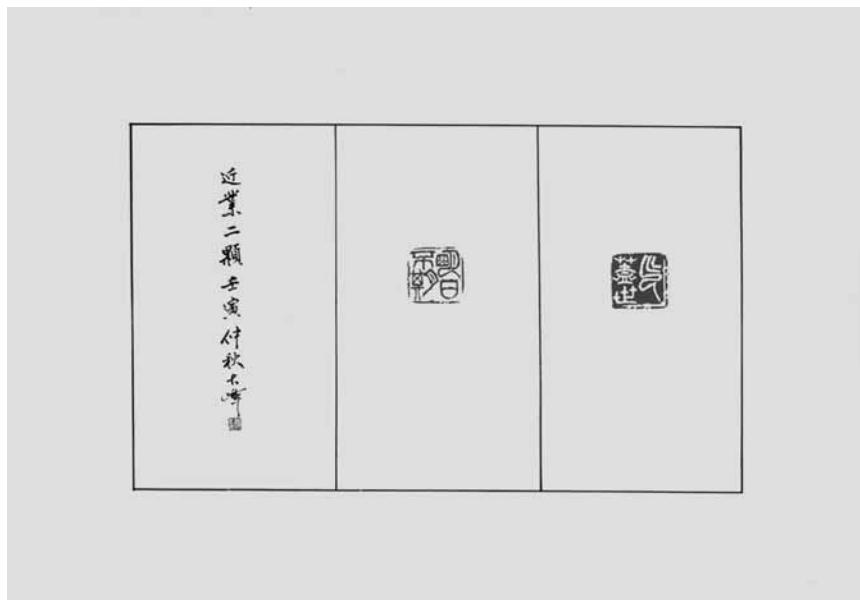
〈薔薇の花〉

(公財)常任総務・理事長 下谷洋子 62×116cm



〈夏落葉〉

(公財) 常任総務・常務理事 小竹石雲 70×150cm



〈近業二顆〉

(公財) 常任総務・常務理事 後藤大峰 70×100cm

審査会員候補

秋季菊花賞



〈覚和歌子の詩〉

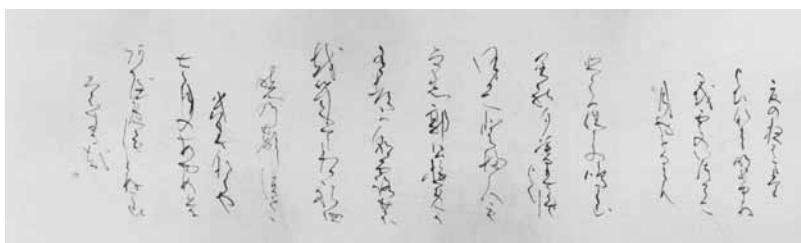
安藤 美 悠 55×175cm



〈あふれる〉



斎藤 実



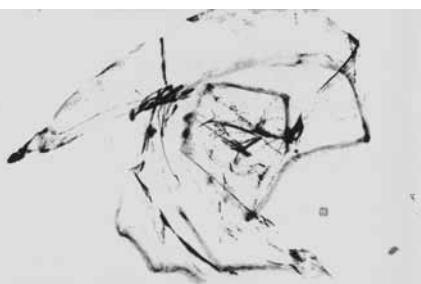
〈夏の夜は〉

川村素舟





〈久遠-22〉



高島 洸蓮 60×180cm

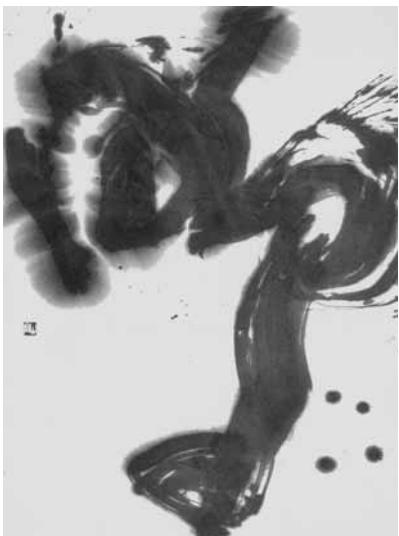
〈五言二句〉



本郷谷恵

175×57cm

△鳴△



寺内宏山

121×91cm

△群△



廣田 紫

150×72cm

△壺△



永井明香

121×91cm

〈併催〉「書道芸術院推薦作家」展

会期 令和4年10月4日(火)～10月9日(日)

会場 アートサロン毎日(竹橋・パレスサイドビル1F)

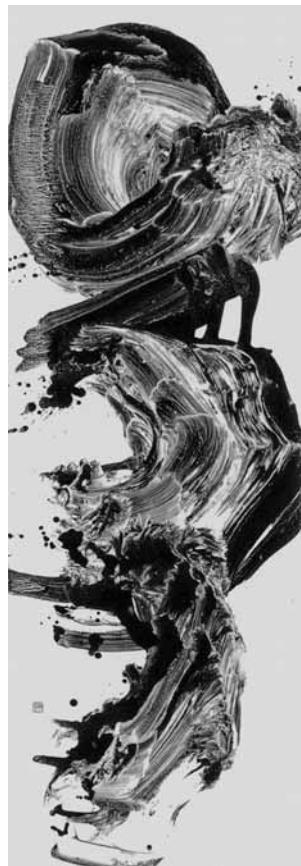


〈張旭詩〉



『板橋雅邦』

△
陰△



180×60cm

『荒谷明美』

《一條紅蕭》



〈跳躍〉

120×180cm

〈天遊〉



《川村 美泉》

240×90cm

〈送鄭侍御謫閩中〉



135×70cm

《奥原翠嵐》

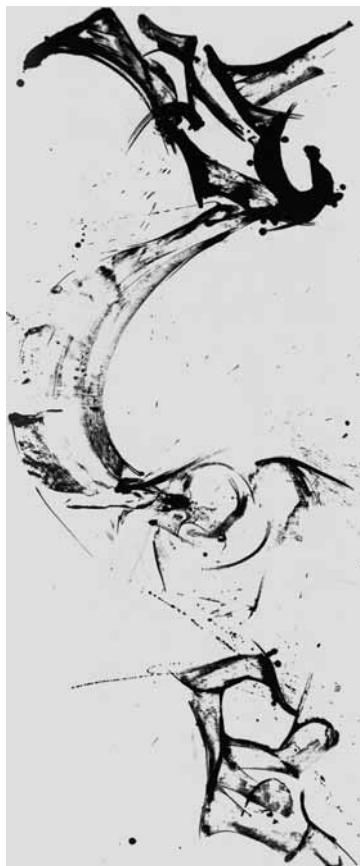
〈五言一句〉



《佐藤好美》

230×83cm

〈挑〉



《栗原りか》

240×95cm

《鈴木英晴》



180×60cm

《治田芳江》



〈田淵行男の文より〉

《高田正岳》



〈春夏秋冬〉

75×65cm

〈曙光に祈る〉

《田中扇溪》



240×90cm

〈夕されば〉

69×107cm・53×107cm

〈山色健〉



166×53cm

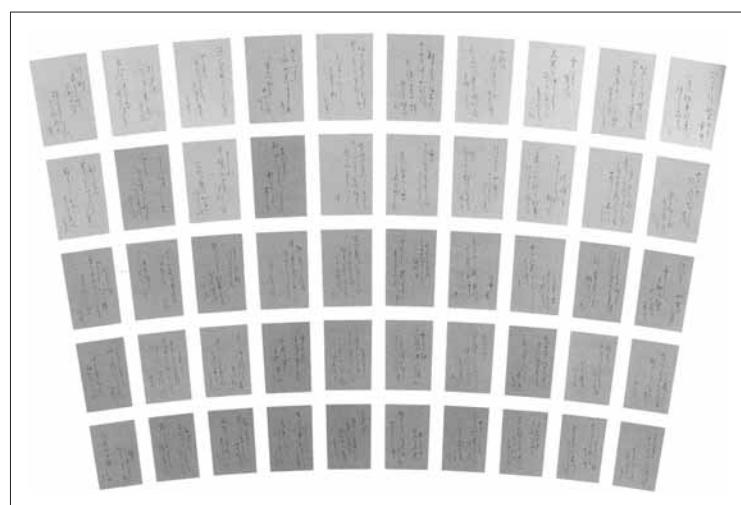
〈山岡扶佐〉



〈空の涯〉

117×87cm

〈寺尾京華〉



〈源氏物語 宇治十帖より〉

150×150cm

〈藤村昌子〉



〈山内松吾〉

書道芸術院創立75周年記念

役員作品巡回展

併催 甲信越支局役員展

会期 令和4年9月30日(金)～10月2日(日)

会場 長野県伊那文化会館

実行委員長(甲信越支局長)

小浜 大明

福で本展を見に行けなかつた会員や、その方の知友の皆さんが多い数參觀して下さり出品者も大変喜んでいました。

地元会員の作品は、漢字と刻字が大き半を占めましたが、その礎を築いて下さったのが香川峰雲先生でした。先生は刻字部を毎日展に取り入れるために

尽力なさいましたが、同時に刻字部への出品を促すため、日本各地を指導して回られました。当地にも定期的に来て下さり、刻字の愛好者がふえてきました。

した。現在は高齢のため「ノミ」を持てなくなつたとおっしゃるの方々も、新聞を見て參觀に来られ、先生の作品を見て当時を懐かしんでおられました。

10月1日㈯の午後1時から約1時間辻元大雲顧問、下谷洋子理事長、小竹石雲常務理事の3人の先生をお迎えし研究会を行いました。辻元先生から巡回展作品の前で作品観賞のポイントをお話しいただいた後、地元出品者で当日出席された皆さんとの作品について、先生方からアドバイスをいただきました。平素は所属会派以外の先生からご批評いただけることはめったにないことがで、参加者一同大変喜び感謝していました。加えて、東京都美術館に足を運んで本展を見る機会がない地元の皆さんに、書道芸術院の内容を知つていただきました。加えて、東京都美術館に足をただくとても良い機会になつたのであるうと考えると、大きな意味をもつ巡回展であったと感じています。多忙の中お見えいただいた諸先生に感謝申し上げます。

います。

書道芸術院創立75周年記念役員作品巡回展は9月30日(金)から10月2日(日)までの3日間、秋晴れの好天に恵まれた中で開催されました。

役員作品巡回展に加え、支局の無鑑査以上の役員の作品も展示、併催されました。その他、香川峰雲先生の遺作と、学生展の大賞、準大賞の作品も展示され、見事な書展になったと感じています。

9月29日(木)午前10時から始まつた陳列作業も、多くの会員の協力のもと、午後3時には終了、その後地元の新聞社3社が取材に訪れてくれましたが、記者の皆さんから、あまり日にすることのない前衛書や現代詩文書に関心をもたれ質問が相次ぎました。

甲信越支局の役員展には、本展に出品した作品を展示しましたが、コロナ



「香川峰雲の世界」のコーナー



巡回展作品



甲信越支局の作品



学生展作品展示コーナー



下谷洋子理事長のご挨拶



巡回展作品の解説をされる辻元大雲顧問



出品者に作品制作のアドバイス



小竹石雲常務理事のご挨拶



遠来の前田龍雲先生とご一緒に



各人への書作へのアドバイス

書道芸術院創立75周年記念

役員作品巡回展

併催 東京総局展

会期 令和4年10月4日(火)～9日(日)
会場 銀座フェニックスプラザホール

実行委員長（東京総局長）

石井明子

△会場設営△作品の表具は東洋額装、
会場設営、陳列、撤回の諸作業は牧野
商会の両社に依頼。本作品119点、巡回
展、特別展示作品も併せて搬入されま
した。スポットライトの追加設置等も
発生しましたが、翌4日には支障なく、
無事開催となりました。

①役員巡回展の作品は入口正面右手奥
△展示トピックス△



巡回展会場風景②

をメイン壁面として歴代会長、顧問、理事長、常務理事各位の作品を1段掛けに。理事、監事、評議員、参事各位の作品は一部2段掛けとして合計63点を展示。
②記念企画「香川峰雲遺作展示」については、令和3年第72回毎日書道展中国展特別陳列「香川峰雲一心で刻む」として広島県立美術館での展示をスターに、本年2月の院展、続けて3月から巡回展として各総局、支局を巡回し、このたびの東京総局展へと至りました。

令和4年10月4日から9日までの開催予定で、5月初頭の実行委員会にてその内容を検討。展示作品は半紙額のサイズで東京、神奈川在住の会員及び各社中の一般の皆さんへの参加を求め等が決まりました。コロナ禍のなか参加者の減少を心配していましたが嬉しいことに、刻字部を除き119名の参加がありました。

令和4年10月4日午後、香川倫子先生がご家族と一緒に突然来場され、私どもはびっくり。(実は倫子先生からのメールの見落としが原因) 今回はコロナ禍でもあり下谷理事長ほか一部の役員の先生方だけの対面ではありますがあ、歓談されました。東京総局にとりましては大変に嬉しいハピニングでした。

末尾ではありますが、開催にご協力をいただきました皆様方に深く感謝申上げます。

(三森慧香記)



巡回展会場風景①

上旬並の寒さの日もあり
⑤会期中 東京では11月
中止が決定されています。

東京総局展会場入口



香川峰雲遺作展



巡回展会場風景③



東京總局展 陳列風景



東京總局展 名譽・参与会員作品



東京總局展 会場風景②



東京總局展 会場風景①



香川倫子先生を囲んで



下谷理事長との集合写真



(掲載図版・65%に縮小)

古典鑑賞

乙瑛碑(2)

後漢(153) 筆者不明

春秋饗禮。財／出王家錢。給／犬
酒直。須報。／謹問大常。祠／曹
掾馮牟史。

春秋に饗禮するに、財は王家
の錢を出だし、犬酒の直を給せ
んことを。須らく報づべし。謹
みて太常に問うに、〔祠〕曹掾
・史馮牟。

〈解説〉乙瑛碑は重厚で力強い線
をもつとともに、謹嚴ななかにも
ゆったりとした結構をそなえ、均
整のとれた美しさを見せている。
清代の王澍(1667—1743)は『虛舟
題跋』で「乙瑛は雄古、韓勅(礼
器碑)は變化、史晨は嚴謹なるも
みな漢隸の極則なり」と評し、諸
家も八分隸の代表として高く評価
している。この用筆に近いものに
はやはり後漢の西嶽華山碑(168年
刻)がある。乙瑛碑は、史晨碑、韓勅
礼器碑とともに「孔廟三碑」と称
されている。

(編集部)

※落款を必ず入れる。
しくは〇〇臨(押印のみも可)

漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 (A. 大作の部—毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可)
(B. 小品の部—半切以上半切以内、全紙以内も可(A・B縦横自由)) 当該古典の上記掲載
部分以外も可。

針切
(云藤原行成)

②

かな研究部臨書課題

B.A. 大作品の部毎日展審会員会員サイズ以内、2×6尺全紙も可
B.B. 小作品の部毎日半切以上、半切以内(縦横自由)
いずれも左記の掲載以外も可。V

特別研究部臨書課題

(半紙普通判(斜紙可)・縦長に使用)
別紙裁断して貼付も可。半紙は半紙サイズに切って使用のこと。
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全體も可)

よみ
わすれじやなびくさばにつげつゝもつゆのいの
ちのあ覽かぎりは
たのむ人のとはぬことをうらみやりはべりと

* とふことはもつゆばかりみえぬよになにかゝれる
いのちなるらむ
ふ布可支山にこもりはべりて、五月五日

山でらにこもりて、ひとりごはべる
きわわたる覧

※掲載図版・80%に縮小

<解説>

『新撰古筆名葉集』(安政5年(1858)刊)の権大納言行成卿

の項に、「針切 四半、カナ 文字細キ故ニ云」とあり、針

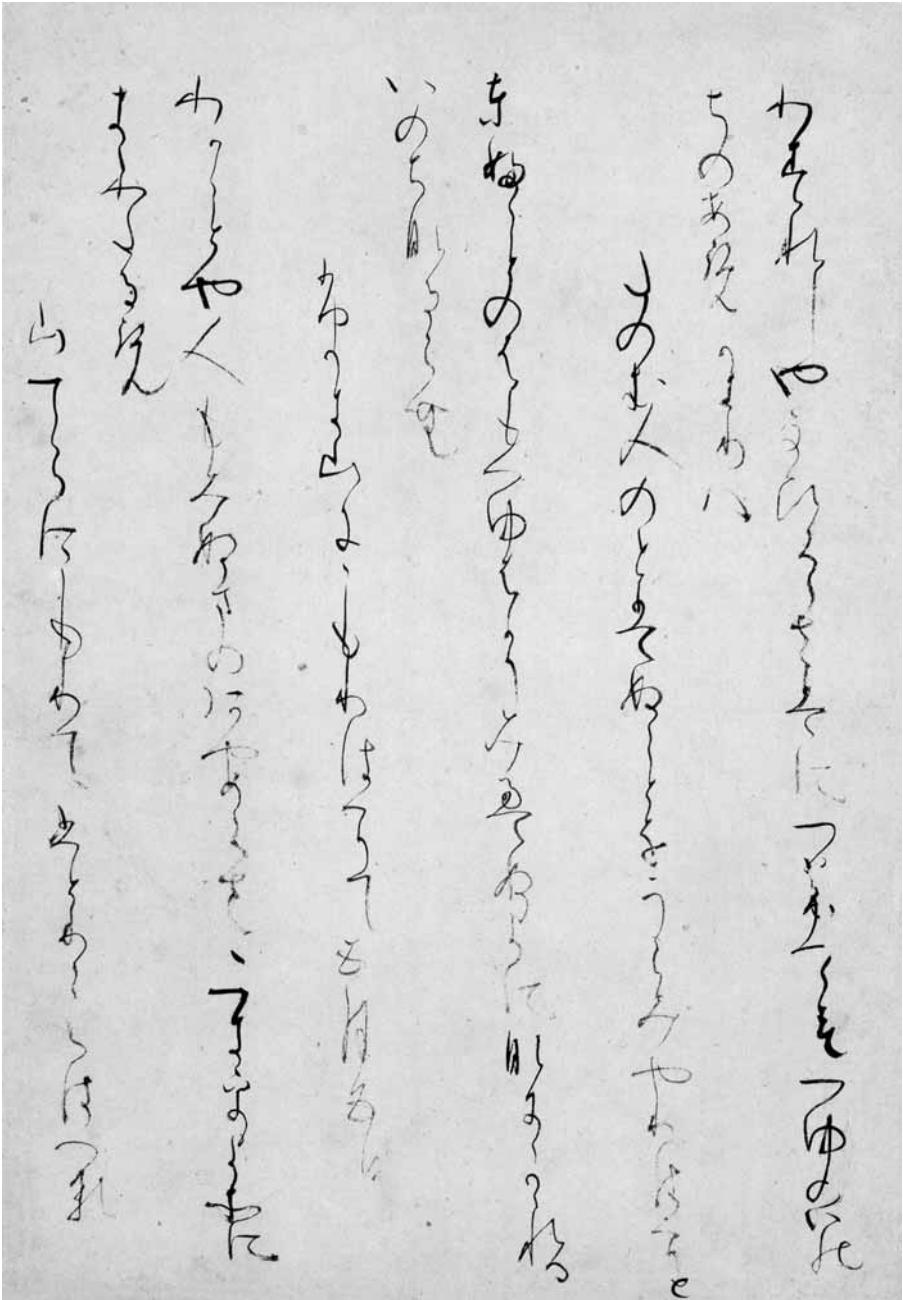
切の名の由来と藤原行成の

筆であることを伝えている。

しかし、行成筆については確
証がなく、さらに下つて11世
紀末から12世紀初めころの書
写と考えられる。この針切は、
その名の由来の通り細くて鋭
い筆線と、流麗で自由闊達な
リズムが魅力である。臨書に
用いる筆は、いたちなどの
命毛のしっかりした、こし
の利いたものがふさわしい。

(編集部)

※古筆は原寸(以上も可)
※落款を必ず入れる。署名、も
しくは〇〇臨(押印のみも可)
で臨書しましょ。



(個人蔵)

※古筆は原寸(以上も可)
※落款を必ず入れる。署名、も
しくは〇〇臨(押印のみも可)
で臨書しましょ。

名 越 蒼 竹

十里秋風香
(黄庭堅詩)
(十里秋風香)

秋の風が花々の香りを運んで来る。

秋

風
香

蒼竹



書体=自由

半紙に何文字書くと章法がうまくいくか、それは書体・書風によつて異なります。縦長字形の篆書体や歐陽詢の楷書、空海の書、唐の太宗の書は4文字ずつ書くと收まりが良く、横広字形の隸書体や北魏楷書などは2文字・6文字ずつ書くと收まりが良いようです。

一般論としては、文字の大小や字形を自由に行える行草書体は、半紙に6文字書くと章法を整えやすいように思います(ここでは5文字ですが)。逆に言えば、行草書の場合、隣り合った行で、文字を同じ高さに書かないことが余白美を感じさせるコツでもあるのです。

行草体で書いてみようと思われる方は、特に意識してみてください。参考作は羊毛筆を用いました。

十里秋風香 よみ(十里秋風香)

川島舟錦

順天應人
(天に順い人に応ずる)
(易經)

“私欲でなく天の命に従い心奮起して自ら動き人の願いに応えるような革命・改革は偉大なものである。”
時代は巡っても、「順天應人」そんなことのできる人達に世の中を託したいものだなあと流れくるニュースにため息ばかり…。育ちゆく孫の世代が前途洋洋々、平和であり続けてほしいと願う日々です。

今月も、上段の画数が多く、下段が少ないので4文字のまとめにくぶうが必要です。「順」「應(応)」は、筆をたて筆順に従つていただくだけで充分ですが、「天」は、虚画・筆脈を大切に筆を大きく運ぶこと、線をやや太くすることなどに配慮する必要がありそうです。「人」は1画目と2画目が支え合うような角度、「天」とのバランスなど「楷書が基本」の由縁を思うところとなりました。

順天應人 よみ(天に順い人に応ずる)

書体=楷書



吹きさらしに馬一つ行く枯野かな
(河東碧梧桐)

冬の寒さの中、吹きさらしの枯野
原に、一頭の馬が歩いている様子。
枯野の佗しさが伝わってくるような
句です。

俳句は17文字ですので短歌とは違
い、書く字粒も大分大きくなります。
筆は短歌を書く時よりも少し大きめ
のものを使用し、思いきり大胆に書
きましょう。

今回は、作品を円の中に書く様な
構成にしてみました。書き出しは中
程に短く、2行目は少し長く「し」
で伸ばし、「二」で締めます。3行
目を一番長い行にし、中心より少し
ずらしました。次行は徐々に短くし、
終りに1文字を添えました。この形
式にこだわらず自由に、色々と工夫
をし、独自の作品ができますよう望
みます。



よみ方 吹きさらしに(一)馬一(ひとつ)つ(徒)行(遊)く(久)枯(可れ)野か(可)な(奈)

創作

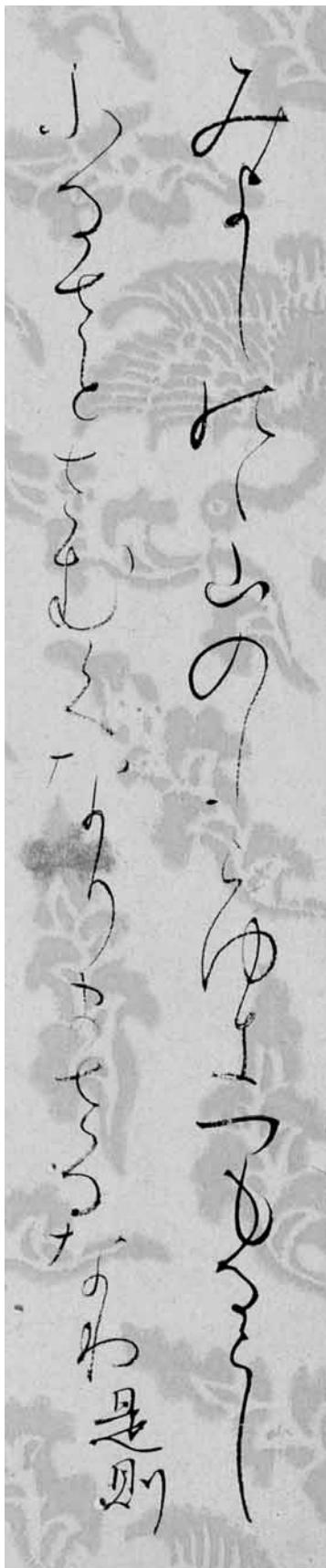
*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使
用しましょう。

33.0×24.5 cm)

かな規定 秀級以下【十二月十日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

(掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上)の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



かな条幅規定【十二月十日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

佐藤希雲選書

音羽山木高く鳴きて 郭公
君が別れを惜しむべなり
(紀貫之「古今和歌集」)

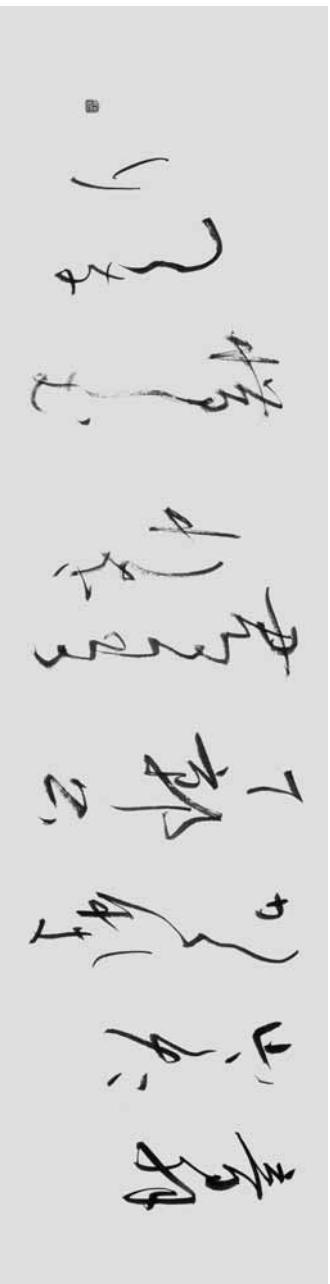
習い方解説 (二)

「音羽山の梢はるかに鳴くほと
とぎすは君との別れを惜しんでい
るかのようだ」の意。

集団を二つに分けて、最後を少
し右に傾けてまとめてみました。
ほとぎすは、郭公・時鳥・子規・
不如帰など多くの書き方があります。

よみ方 音羽山木(こ)高(たか)く(久)鳴(那)き(支)て郭公

君が(可)別(王可)れを惜しむべらな(奈)り



創作

*ヨコ形式に限る

出品券
貼付位置

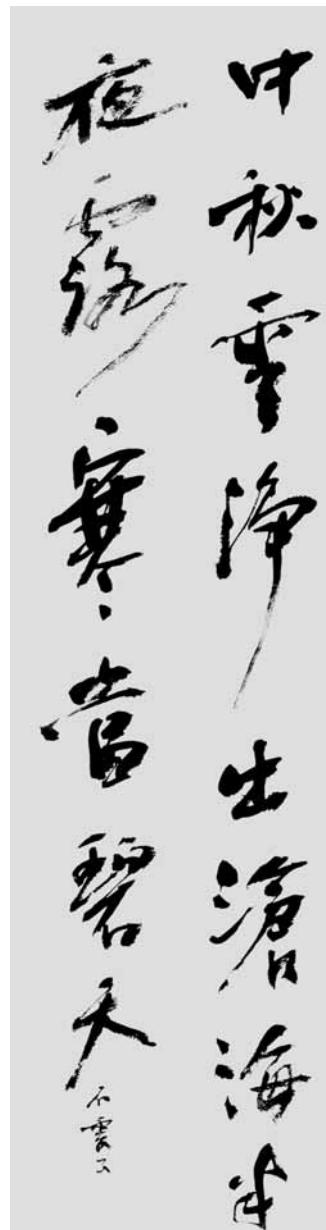
漢字条幅規定 初段以上【十一月十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

小竹石雲選書

小竹石雲選書

習い方解説 (二)

小竹石雲



中秋雲淨出滄海
（中秋雲淨く滄海を出で、半夜露寒く碧天に當る。）
（許渾）

書体＝自由

※タテ形式に限る

直線を中心とした行草で書いてみました。線の太細、強弱の変化をつけながら一本調子にならないように書くことが大切です。このことは条幅学習では最も大変な作業です。焦らずコツを掴むまで練習してください。今回は呉昌碩の尺牘を脇において書いてみました。生き生きとした勢いのある動きを心がけました。

漢字条幅規定 秀級以下【十二月十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

小林琴水選書

習い方解説 (二)

小林琴水



書体＝自由

ゆっくりと筆を運ばせ、筆の閉閉（筆先のひねりを入れ細線を使つて、強い線を出す。ゆるめて肉太の線でボリュームを出す）に気をつけましょう。紙面をいかに動かで、作品はまとまっていくと思います。空間（次の画への動き）は大きな動きで筆を動かせることで、スケールの大きさが出てきます。

掃雪開松逕
(雪を扫一
松逕を開く)

広瀬舟雲

成功を祝うのは
いいが、もっと大切
なのは失敗から
学ぶことだ。

ビル・ゲイツの名言 舟雲

ビル・ゲイツは、マイクロソフト社を創業した米国の実業家で、世界長者番付の常連になるなど大成功を収めた人物です。成功よりも失敗から学ぶことが重要といいます。失敗を恐れない堂々とした彼の信念のごとく太いフェルトペンで書いてみました。

落款も同じペンで書いてみましたが、入
れにくい場合、この箇所を細いペンで書い
てみても、または全体を別な硬筆用のペン
で書いてみても結構です。

成功を祝うのは

いいが、もっと大切

なのは失敗から

学ぶことだ。

ビル・ゲイツの名言

「注意!!

用紙の大きさにばらつきが見られます。

用紙サイズ(14.8×10cm)を守って下さい。

- ◇用紙 ハガキ大 (14.8×10cm) の白紙を使用
- ◇黒インクのペンを使用 (ボールペン・フェルトペン可)

霜月 暮秋 三重県 滋賀県

霜月 暮秋 三重県 滋賀県

小春日和のうらゝかな今日この頃です

小春日和のうらゝかな今日この頃です

大平 邑峰

(楷書) 霜月 暮秋 三重県 滋賀県
(楷書) 小春日和のうらゝかな今日この頃です

(行書) 霜月 暮秋 三重県 滋賀県
(行書) 小春日和のうらゝかな今日この頃です

基本用語 「霜月」旧暦11月の別称。
「暮秋」秋の深まる頃、晚秋とも。

- ◇ 小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を (掲載手本90%に縮小)
◇ 用紙は普通版半紙横1/2(24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
◇ 所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

今月の

ホープ作品
各部総評 No. 737

ペン字部 師範 川元 茶仙
漢字とかなが美しく調和し、練度の高い書線と流麗なリズムが魅力。布置もみごとな秀逸作です。

◎ペン字部総評 用紙の大きさにばらつきが見られます。はがきサイズ(14.8×10.5cm)を守って下さい。(本誌25ページを参照)(紅瑠評)

われわれの仕事にめでたす
美しい形や色はすくとも
何かつよいものが命が脈打つて
いなければぢりぢりと思ふ。
棟方志功の言葉 茶仙書

かな条幅部 師範 下津 舟楓
自然なりズムで難しい連続部分もよく熱し、淀みがない。筆圧の軽重が巧みで垢抜けた趣を生んだ。

◎かな条幅部総評 変体がな阿はこざとへん、河とは区別したい。潤渴、大小、太細など全て過剰は品を失うので要注意。(洋子評)



現代詩文書部 特選 齋藤 永舟

練度の高い線質で、文字の大小微妙な墨量の変化も自然。詩情が心に滲みてくる。

◎現代詩文書部総評 練度の高い作多数、文字、構成等に凝らし過ぎと思われる作散見。(無極評)



漢字条幅部 師範 新村 翠芳

漢字を基にして、大小、疎密の変化を加え、線が冴え、明るくのびやかな隸書。表情が豊かです。

◎漢字条幅部総評 上級は、隸書作品が多く見られた。基本的な筆法が未熟な作も目立つ。多様な学書が望されます。(萬城評)



前衛書部 特選 高橋 栄杏

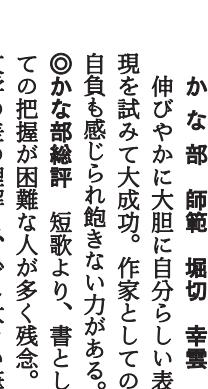
線の力強さと躍动感溢れる作となっている。空間や飛沫を効果的に活用している。

◎前衛書部総評 作者の思いが伝わる作品が見られた。また作品の大きさに合う印を考え。(蓮紅評)



かな部 師範 堀切 幸雲
伸びやかに大胆に自分らしい表現を試みて大成功。作家としての自負も感じられ飽きない力がある。

◎かな部総評 短歌より、書としての把握が困難な人が多く残念。文学の差の理解と、少し大きい筆の使用で解決を探ろう。(明子評)



漢字部 師範 宮本 月琴

躍動感のある運筆に搖るぎない線で紙面を捉え、縦横自在な動きが表情豊かな詩情を奏てる。

◎漢字部総評 参考手本が隸書だったせいか隸書作が多かった。構築性の甘さが散見された。安易な取り組み方は是正を。(石雲評)



实用書優秀作品

選評 西川翠嵐

◎実用書部総評

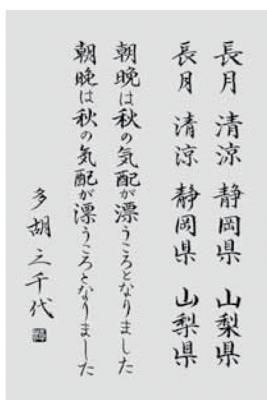
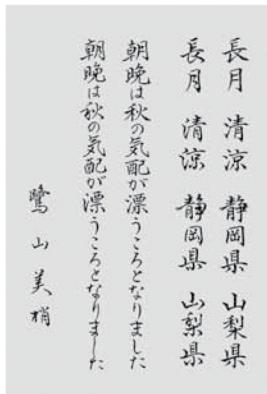
丁寧に書かれた作品が多く審査は大変むずかしかったです。紙面に対しても文字の大きさや行間を意識すると整っててくるでしょう。（翠嵐評）

楷行見事に書き分け余白の美しい
すつきりした作品となりました。

特選 鶯山美梢

文字の大小、曲直、太細が整然と
して素直な筆使いが光ります。

特選 多胡三千代



前衛書部(特選)

現代詩文書部(特選)



一琴茜 順理子

心安らぐ温かな線が魅力
面線の強さと余白が融合

紫蕙定成沙

躍動感、白黒の対比美しい
渴筆回転線の動線に遠近感

選評 太田蓮紅

造形の組み立てと線が絶妙
墨色と線の温かみが一致
用材の特徴を活かした作

奎香

緩急、潤滑備わった佳作
淡々として味わい深い作
朴納として心安らぐ作

桂真由美

大胆な構成、勁い線が佳
運腕大で骨力ある線籠る
素朴な運筆で詩情を説く

四峰祥里

骨力ある線が紙面を支える
強靭な線が紙面を支える
秘めた気迫情勢が溢れる

選評 佐藤無極

大作の部



角張芳蘭書

135×105cm

前衛書 (玉州) 角張芳蘭 「歩」

◆ 4.5尺×3.5尺の紙面に長鋒筆の開閉をダイナミックに表現。濃墨による潤滑の変化も冴え、スケール大きく、気力充実の作となつた。
(紅瑠評)

臨書 (千葉)
竹浪叙舟
「枯樹賦」

清水蘭舟書

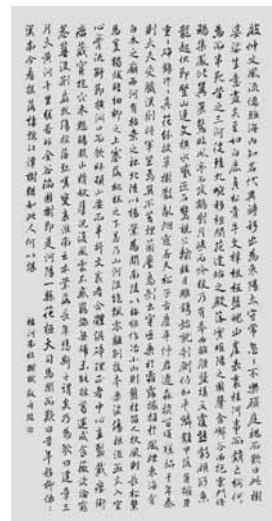
240×60cm

◆ 細味の線で爽やかに運筆、かなのがリズムに手慣れて頼もしい。字の大字や太細を加えさらに深めたい。
(洋子評)

(洋子評)

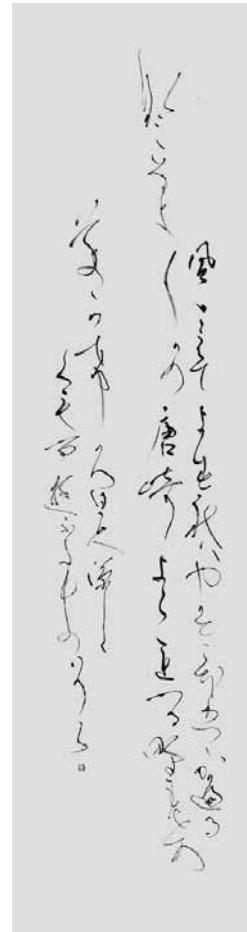
◆ 枯樹賦の線質、字形の特徴を的確に捉えた着実な臨書で完成度が高い。字間、行間の余白も見事。(萬城評)

竹浪叙舟臨



136×70cm

かな (水茎)
清水蘭舟
「西行の歌を」



◆ 細味の線で爽やかに運筆、かなのがリズムに手慣れて頼もしい。字の大字や太細を加えさらに深めたい。
(洋子評)

(洋子評)

現代詩文書 (宗苑)
臼井真理
「松本一哉の詩より」



◆ 墨量ある漢字と、渴筆部分の冴えが見事にマッチしている。縦3行の流れは自然で運筆の実力が發揮されている。(和楓評)

臼井真理書

◆ 細味の線で爽やかに運筆、かなのがリズムに手慣れて頼もしい。字の大字や太細を加えさらに深めたい。
(洋子評)

(洋子評)

大作の部

創作の部(34点)

漢字 - 3点

かな - 7点

現代 - 7点

前衛 - 17点

漢字 - 15点

かな - 10点

現代 - 7点

前衛 - 15点

180×60cm

創作の部(34点)
漢字 - 3点
かな - 7点
現代 - 7点
前衛 - 17点
漢字 - 15点
かな - 10点
現代 - 7点
前衛 - 15点

総出品点数
49点

創作の部
(特選候補者)
漢字

前衛
漢字

漢字研究部
(枯樹賦)

選評 川島舟錦

今月のホープ作品



二 上 香 柳

漢字研究部 特選 二 上 香 柳

捉えにくい一字一の筆の動きや字形の傾き具合など枯樹賦の特徴を捉え4文字をしつかりまとめました。軽妙で情緒豊かな筆使い、日々精進できていることの伺える作品です。

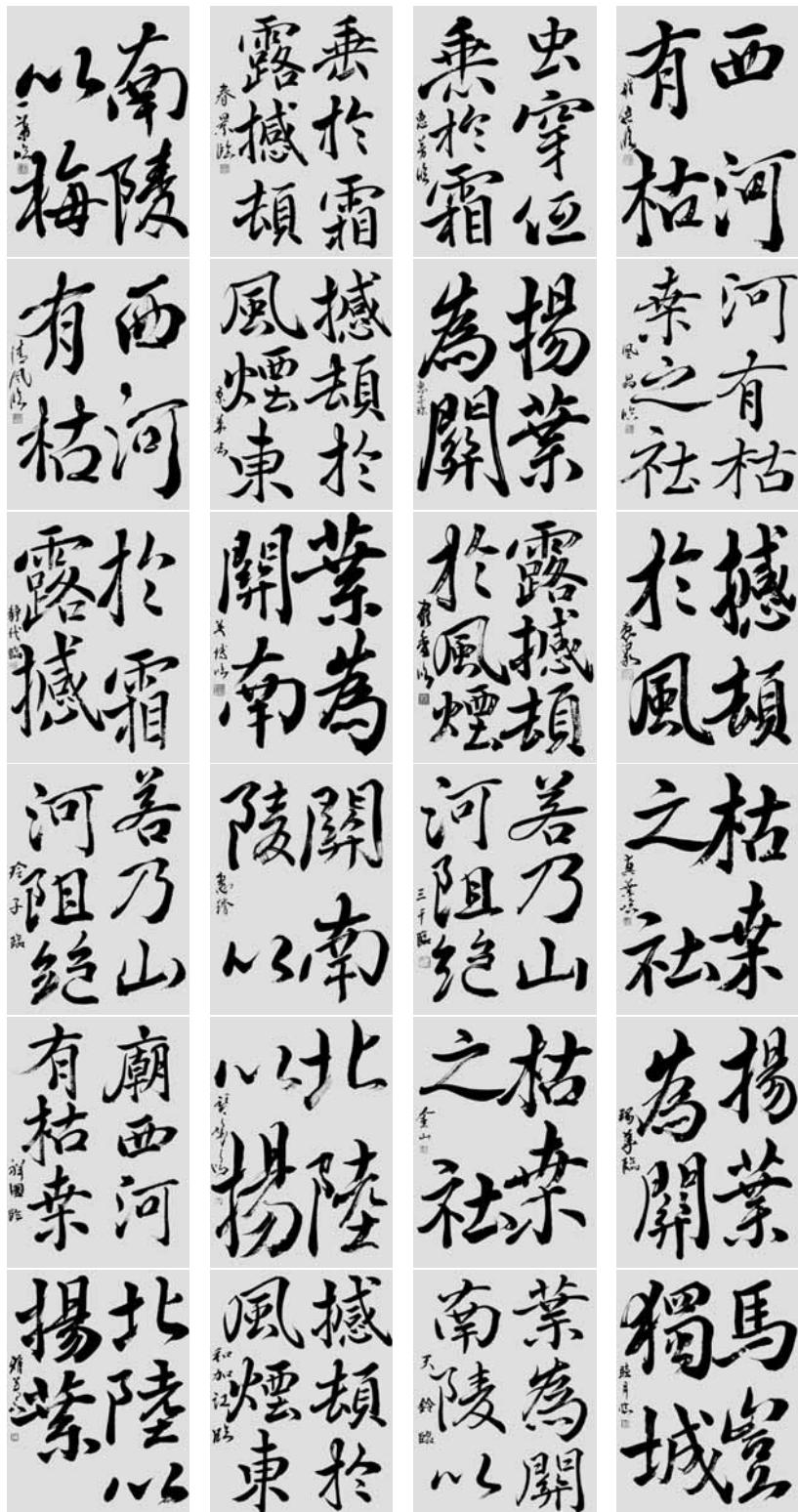
一つ、「之」の右払いはのびやかに。

◎漢字研究部 総評

俯仰法を意識したり、抑揚の変化を求めたり、自然でおおらかに書こうとすると、一字

をまとめることにも苦慮してしまったのに、全体としては均衡がどれ何の不自然なところもなくまとまっている枯樹賦。細線でありながらしなやかで強靭な線、静かではあるが筆の動きは大きく、粘りのある運筆。

私には、おすすめして「しっかり臨書してみて」といわれているように思えます。「手強い枯樹賦」の意識は今もなお変わりません。



雅祥玲 静清一
芳園子代 風葉

和琴惠芳京春
加江燐秀博花景

天奎三千
鈴山子香子芳

睦瑞真惠鳳雅
月華葉泉晶悠

か な 研 究 部 (升色紙)

選評 庄 司 紅 郷

今月のホープ作品



岡田麻美

かな研究部 特選 岡田 麻美
原本の美しい濃淡の墨色表現を感じ性豊かな筆の力で臨書できました。一字の中に纖細な部分を見出して丁寧に捉え、工夫の跡がうかがえます。
◎かな研究部総評
品格ある「升色紙」の特徴をよく捉えた作品が多くありました。古筆全体から醸し出される美しさはどこから出るのでしょうか。潤渴・連綿・散らしとの基本も大事です。

愛雅裕
石泉美

秀渡澄わ正森う
畠辺春か華地る

美耶代子

洋幸咏

和和嘉
子美江

かな研究部成績表

秀渡澄わ正森う 畠辺春か華地る	松高奏縁わ白こ清玉や水沙石竜有紅上玉上わ書清書清正 村井香縁か露だ月松ま塗莉留泉秋風泉松泉か游月泉月華
秀	秀
大木印池石飯 野沢田東川田高 千川知(50) 鶴淳春正津幸幹 子子惠華子子生	青梗小原都春小飯青中永瀧松高刑船長田萩伊庄境七小岡田 木田木丸原松島木込井口丸橋部津沼中原藤寺野五林田 曾知千ト美え木不 玉和泰恵愛慶恵ミ葵京悦み愛雅裕代リ耶洋幸咏和嘉麻 枝子香子理子子郷花子子石泉美子子衣子子艸子子美江美
光彩佳	東華椿竹清高蓮椿長上正姫十一も春清上や華土香大光大芳大附う正大上四 伯仙翠美月真紅翠月泉華路氣草く汀月泉ま祥氣書拙彩雲蘭阪中る華雲泉枝
浅川みな江 作(50書)	山山安八森松本平原早林乘野中戸渡徳塚田高杉須佐櫻驚斎小國木木河柏奥 本口鳴木尾田山澤部船村村部子江本玉木田質藤田山藤林峰村原合谷川 眞橋奈有なか喜一澤 眞雪砂紀都希美典美抱奈一藤紀淳え哲昭詔一陽龍美江萩琴順輝和和麗 紀翠子舟東子雪子子朗子花々翠風子子子華風起子自尚彩江翠子子敬子流

も澄京文紅正こ華幸華あた掃華上青高桜遊遊上白立華紅蘇正澄明秀た春蕙潮大一こそ春矯正樹書も正こたA澄立や華大葉仙く春橋筆瑠入華だ仙扇仙かか雪祥泉蓮崎草雲田泉嶺精仙瑠我華春漢畠か汀書音雲弦だ汀韻華原游く華だかI春精ま祥雲月台新阿東青藍渡吉山山柳本福樋賡沼二苗長中中富千竹須杉新島惟雄佐坂齊高工北河加金葛小岡大梅梅生植猪伊板磯新熱井部木澤辺野本本瀬吉柳富口田田通代井村村澤田井田原浦行名渡々本藤武藤爪村納田野部渓原津方田股東垣貝井海運(50章題)藤冬花知白桜美梅秀明小牧玉陽奎麗佳久保ゲ白白香香美幸瑞美光簾和里杏玄和美幸順真惠よる藤る虹代美紅白京青清惠桃雪華子子咲優佳楓香華香皇子葉一心子恵仙子子雲香華舟穂子子右子美邑城香和子子優美こ瓊な祥子子雨蕙子鳳蘿子

書

展

第57回

竹扇会書展

小林琴水

会期＝令和4年9月17日(土)
～19日(月)

会場＝大阪産業創造館

とても楽しく拝見させていただきま
した。竹扇会の今後のご活躍を祈念い
たします。

今年の竹扇会書展は「つなぐ」をテー
マに取り組みました。
会場は、繊細で流麗な美しい作品群
で埋め尽くされ、明るくすっきりした
印象を受けました。これは、筆先を巧
みに使い、細く強靭な線を出すという
小伏竹村先生の指導がしっかりと受け
継がれた結果だと思われました。ここ
にテーマが生きていると強く感じまし
た。

また、会場の半分を使って、今年度
毎日書道展審査員に昇格された松浦
錦扇先生の個展コーナーが設けられ、
迫力のある超大作7点が展示されまし
た。さらに10名の篆刻作品が会場入口
に展示されていました。



会場風景



竹村先生、小扇先生の作品の前で

2022春洋会書展

藤原聖美

会期＝令和4年10月8日(土)
～10日(月)

会場＝大阪産業創造館3階
マーケットプラザ

まだまだ暑さの残る10月9日、春洋
会書展を訪問しました。「山」「海」「
川」をテーマにした迫力ある作品の
数々が並んだ会場は大勢の来場者で賑
わっていました。

温かくすべてを包み込むような恩地
春洋先生の遺作「鶴」、洗練された構
成と見事な線質で表現された小林琴水
先生の「鳥海山」をはじめ審査会員の
先生方の多彩で熟練された作品に魅せ
られました。特に目を引いたのは新審
査会員3名による大作、市川将義さん
の「山」、池田繁紗さんの「海」、富原
扇水さんの「川」です。迫力ある運筆
はまさに大自然の雄大さと強さを感じ
られ圧倒されました。また、審査会員
候補・無鑑査の方々の作品もテーマに



会場風景



琴水先生による作品解説

沿って明るく生き活きと表現されてお
り意欲を感じられました。臨書コーナー
では「樂毅論」の全臨が展示されてお
り見応えがありました。

古典を研究しつつ、多様な書表現を
探求されている春洋会の皆様のますま
すのご活躍を祈りつつ会場を後にしま
した。

古典を研究しつつ、多様な書表現を
探求されている春洋会の皆様のますま
すのご活躍を祈りつつ会場を後にしま
した。

●篆刻

【十二月十日締めきり】

〈出品規定〉審査会員を含む、誰でも出品可。

①摹刻

(ア)課題による語句
(イ)原印自由
(出品の際、原印のコピー添付)

②創作

語句自由

- 印面の大きさは2.3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印鑑は市販のもの、半紙横½の大きさに切ったものも可。
- 創作、摹刻とも応募は一人一点。

11月号 摹刻課題

〈原印コピー〉



趙之謙 (清)

「周千秋」

○出品方法

用紙の右側に押印し、左側に印影の記文を明記、並びに落款(氏号)を入れる。

		(摹刻)			
		特選	佳作	特選	清麗
秀	作 (50音順)	やま	橋本	橋	本
大雲		特選	清麗	特選	
中遊					
水茎					
附中					
秀					
林					
中川					
織田					
高岡					
淳研					
秀美					
華仙					
一治					
丸山					
香書					
大葉					
入					
生					
慈雲					
大空					
秀					
赤星					
坂本					
義昌					
義則					
山庵					
富花					
見莖					
游水					
高橋					
荒川					
野木					
紫蘭					
(選外なし)					

		(創作)			
		特選	佳作	特選	龍仙
秀	作 (50音順)	粹仙	藤井	藤	井
赤星		特選	龍仙	特選	
坂本					
義昌					
義則					
山庵					
富花					
見莖					
游水					
高橋					
荒川					
野木					
紫蘭					
(選外なし)					

定価 一部 七五〇円

令和四年十月二十五日印刷
令和四年十一月一日発行

編集兼 下 谷 洋 子

発行人 印 刷 データ処理

株式会社 リンクス

小沢写真印刷 株式会社

公益財団法人 書道芸術院

発行所 東京都千代田区東神田一丁目六七

電話 (03)3862-1954 FAX (03)3862-1957

郵便番号 101-0031 振替 100-150-4135058
ホームページ http://www.lins.co.jp/shogei/

<特選>



「臣之謙」

摹刻

737号篆刻優秀作品

選評 後藤大峰



「美悠」

創作

コロナ禍の中、当分の間十六時まで時間の変更しております。

電話(03)3862-1954 FAX(03)3862-1957

*お問い合わせ、ご連絡は、月曜日(金曜日九時~十七時の間)にお願いします。(土・日・祝日は休み)

〒101-0031 東京都千代田区東神田一丁目六七
東神田プラザビル三階
東神田プラザビル三階

公益財団法人 書道芸術院

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は